

A. 屋内緑化コンクール 作品部門 審査資料

日本インドアグリーン協会理事長賞

パーク・コーポレーション parkERs

東急不動産株式会社 株式会社東京チェーンソーズ (受付番号 A-5 9)

(フリガナ)	ジウサンシュノ「キ」ト「キ」トクラスワークラウンジ
作品名称	13種の「木」と「樹」と暮らすワークラウンジ
所在地	〒108-0023 東京都港区芝浦4丁目1 1-1 6
応募施設	1 公共 2 学校 3 病院 4 老健 5 事務所 6 商業 7 集合住宅 8 その他
完成時期	2024 年 10 月 31 日

〇作品の概要 (必須)

木(MOKU)をテーマにした、東急不動産株式会社の新築賃貸マンションとなるコンフォリア芝浦 MOKU。サステナブルな素材である木材を RC 構造の中に組み込んだ、木造 RC ハイブリッド構造建築です。森林大国と呼ばれる日本で、昔からわたしたちの身近にあった木の存在。かつての木と人の身近な関係性が蘇るような空間を目指し、樹木や下草、木材、季節の花などをふんだんに取り入れワークラウンジのデザインを計画しました。「温もりの木」「気づきの林」「育みの森」の 3 つのゾーニングに分かれ、奥に進むにつれて森の中に入っていくように緑に包まれる空間になっています。木材・間伐材の調達は、東京の森で林業を営むパートナー会社と協力することで、この空間ならではのユニークな表現を実現しました。

温かみのある木家具や生き生きとした植物と日常的に触れあうことで自然への感受性を高め、五感を育みながら住まうことができる心地よいラウンジ空間となりました。



〇作品のアピール点 (任意)

生きた植物と、成長し伐採された木材と一緒にコーディネートすることで、一連のストーリーを伝え相乗効果となるよう意識しました。荒々しくも温かみのある樹皮の表面、雨の日も風の日も木の重みを受け止めてゆがんだ根元など、さまざまな木の表情に出会うことができます。

「温もりの木」のエリアでは、樹齢 165 年の“ご神木”と呼ばれていたスギを、木挽き職人の技術により二枚のテーブル天板にしました。「気づきの林」エリアでは、切り株の萌芽を思わせる木を切り出した特殊プランターを空間の中に散りばめています。「育みの森」では、森で見られる木々の連なりを意識して植栽計画を行いました。どのエリアでも樹木の使用部分や産地等、木にまつわるエピソードを視覚的に伝えるサインを間伐材で製作し、設置しています。

またワークラウンジに計 18 本の樹木の苗（ヤブツバキ、シロダモ、ホンニッケイ）を植えました。parkERs が森林再生に協力する湘南国際村めぐりの森にも同じ数だけ植樹をすることで、この場所に住むこと自体が未来の森づくりに貢献する仕組みを導入しました。

森の恵みをふんだんに取り入れたラウンジ空間でその心地よさを体感し、植物や木材を好きになってもらうきっかけをつくるのが、森の未来につながることを願っています。



〇緑化システム (任意)

プランター付スタンディングテーブル、プランター付ソファベンチ、水循環機能付き特殊テーブル、切り株の特殊プランター、プランター付きペンダントライト